

2023年6月11日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒157番（旧70番）（SK姉）

『小羊を眺め』

聖書⇒詩編 34:2、9a、16~21節（MM姉）

『どのようなときも、わたしは主をたたえ／わたしの口は絶えることなく賛美を歌う。

味わい、見よ、主の恵み深さを。

主は、従う人に目を注ぎ／助けを求める叫びに耳を傾けてくださる。

主は悪を行う者に御顔を向け／その名の記念を地上から絶たれる。

主は助けを求める人の叫びを聞き／苦難から常に彼らを助け出される。

主は打ち砕かれた心に近くいまし／悔いる霊を救ってくださる。

主に従う人には災いが重なるが／主はそのすべてから救い出し
骨の一本も損なわれることのないように／彼を守ってくださる。』

礼拝讃美歌⇒313番（旧84番）

『主に頼る者は』

聖書⇒フィリピの信徒への手紙 1:9~11節（HT姉、MY姉）

『わたしは、こう祈ります。知る力と見抜く力とを身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。そして、キリストの日に備えて、清い者、とがめられるところのない者となり、イエス・キリストによって与えられる義の実をあふれるほどに受けて、神の栄光と誉れとをたたえることができるように。』

聖書⇒マタイによる福音書 14:25~31節（TM兄）

『夜が明けるころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた。弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた。イエスはすぐ彼らに話しか

けられた。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」すると、ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」イエスが「来なさい」と言われたので、ペトロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われた。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒316番 (旧 88番) (HK 兄)

『わが眺むるは』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11:23~26 節 (KH 兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒146番 (旧 61番)

『小羊の血にて』

《建徳》

聖書⇒使徒言行録 2:1~12 節 (EK 兄)

『五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした。さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、この物音に大勢の人が集

まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」人々は皆驚き、とまどい、「いったい、これはどういうことなのか」と互いに言った。』

聖書⇒使徒言行録 16:6~10 節

『さて、彼らはアジア州で御言葉を語ることを聖霊から禁じられたので、フリギア・ガラテヤ地方を通って行った。ミシア地方の近くまで行き、ビティニア州に入ろうとしたが、イエスの霊がそれを許さなかった。それで、ミシア地方を通ってトロアスに下った。その夜、パウロは幻を見た。その中で一人のマケドニア人が立って、「マケドニア州に渡って来て、わたしたちを助けてください」と言ってパウロに願った。パウロがこの幻を見たとき、わたしたちはすぐにマケドニアへ向けて出発することにした。マケドニア人に福音を告げ知らせるために、神がわたしたちを召されているのだと、確信するに至ったからである。』

聖書⇒マタイによる福音書 27:15~18、22~23、26 節 (KH 兄)

『ところで、祭りの度ごとに、総督は民衆の希望する囚人を一人釈放することになっていた。そのころ、バラバ・イエスという評判の囚人がいた。ピラトは、人々が集まって来たときに言った。「どちらを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか。それともメシアといわれるイエスか。」人々がイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。

ピラトが、「では、メシアといわれているイエスの方は、どうしたらよいか」と言うと、皆は、「十字架につける」と言った。ピラトは、「いったいどんな悪事を働いたというのか」と言ったが、群衆はますます激しく、「十字架につける」と叫び続けた。

そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。』

聖書⇒ルカによる福音書 23:18~19 節

『しかし、人々は一斉に、「その男を殺せ。バラバを釈放しろ」と叫んだ。このバラバは、都に起こった暴動と殺人のかどで投獄されていたのである。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 4:25、5:6~9 節

『イエスは、わたしたちの罪のために死に渡され、わたしたちが義とされるために復活させられたのです。

実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった。

正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれません。しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。それで今や、わたしたちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。』

礼拝讃美歌⇒501番（KH 兄）

『わがため傷つき』

《建徳要旨》